

国語科 第5学年

「同年代の登場人物と自分を重ねて読み、考えたことを伝え合う」

中心学習材「たずねびと」

物語を読んで芽生えた自分の問いの追究は「綾」の変化に迫ることができるのか、友達との対話を通して問いを精選していく授業を提案します。

物語を読んで芽生えた問いの追究を通して、中心人物「綾」に自分を重ねて読み、これからの自分の生き方を考えていきます。本時は、これまでの自分の追究を振り返りながら、「綾」の人物像をとらえるために、どのような問いを追究していけばよいかを考えます。

そのために、それぞれの視点からの気付きや問いをつなぎます。中心人物「綾」の変化に迫ることができる問いを追究できているのか、迫るためにはどのような問いを追究していけばよいか、自らの問いについて夢中になって話し合う子供の姿の実現を目指します。

(小橋 由季)



社会科 第4学年

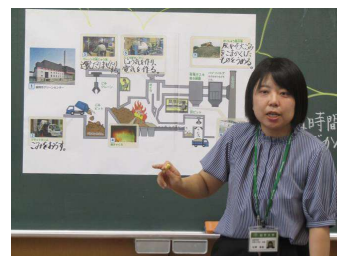
「ごみのしよりと利用」

ごみを減らすために自分たちができることを、子供たちと「ラーニングパートナー」が共に追究し、考えを修正・深化していく授業を提案します。

本時では、ごみの処理や再利用について学習してきたことをもとに、子供同士で話し合ってきたごみ減量のための考えを「ラーニングパートナー」（学習の伴走者）と交流します。そこで生まれた新たな問いをラーニングパートナーと共に追究し、深めていきます。

それぞれの実態に応じて、考えを認めたり、子供とのやりとりを通して気付かせたり、ラーニングパートナーと子供をつないだりすることによって、新たな視点（取り組みの対象や時期、場所、手段）をもって、自分の考えを修正・深化していく学びを目指します。

(松澤 春香)



算数科 第1学年

「どちらがながい」

身の回りのものの長さに関わる数学的活動を通して、ものの特徴に着目し、長さは「端をそろえる」と比べられることを見いだしていく授業を提案します。

校庭の鉄棒で遊ぶ場面などを想起し、身の回りにあるものの「長さ」に着目していきます。そして、具体物を操作しながら長さを直接比べていく中で、一方の端をそろえると、反対側の端で長さの大小を比べることができることを見いだしていきます。

子供の「小さいよ」「高いね」などの直観的な考えに対して、問い返しや価値づけを行います。そして、「こうすれば比べられそう！」「ほかのものでも長さを比べたい！」という思いを基に、「曲がっているときはどのように比べたらよいだろう？」「のぼして比べたい」など、新たな問いを創出していく子供の姿を目指します。

(井面 聖太)



理科 第3学年

「物の重さ」

形を変える前後の粘土を手で持って比較する活動を行い、そこから生まれた気付きや疑問から、自分の予想までを見通した課題を見いだす授業を提案します。

本時では、形を変える前と後の粘土の重さがどうなるのか、実際に手で持って比較する活動を行います。その中で、気付いたことや疑問を交流し、「形を変えても重さは変わらないのではないか」という予想を見通しながら、「同じ粘土は、形を変えると、重さが変わるのだろうか」という課題を見いだしていきます。

子供たちが「調べたい」という思いや願いを基に探究を進めていけるよう、教師は一人ひとりが実際に粘土を変形しながら考えたり、個人の課題を学級で交流したりする場を設定します。また、第3学年において、探究の入口となる課題を見いだすことの支援を行い、子供が学びをたのしむ姿を目指します。

(高田 真希)



図画工作科 第2学年 「わっかでへんしん - 工作に表す -」

何度も輪を着けたり、友達の姿を見たりしながら、色や太さ、長さ、形などによる違いを感じ、変身したいもののイメージを広げていく授業を提案します。

「腕に着けたら?」「赤色なら?」「太いわっかになると?」様々な輪を、体のいろいろな部分に着け、何に変身したいかを見付けていきます。

子供たちが輪を着けた自分の全身の姿、部分的な姿を見ることができるよう、教室に鏡を配置します。変身したいもののイメージを広げていけるように、輪を着けた自分や友達の姿を見る時間を保障し、手や体全体の感覚などを働かせながら何度も試して、「変身したい」「このようにつくってみたい」という思いや願いをもつ姿を目指します。

(久慈 美香子)



音楽科 第5・6学年 「音のひびきを味わいながら リズムアンサンブルをつくろう」

即興的に音色やリズムを試したり、友達の演奏を聴いたりしながら、組み合わせた楽器による響きのよさや面白さに気付くことができる授業を提案します。

本時では、様々な打楽器の音色を組み合わせてできる響きのよさや面白さに気付くことができるように、演奏する楽器を入れ替えたり、たたくリズムを変えたりしながら、グループごとにリズムアンサンブルを楽しみます。

「なぜよい響きになったのか」「どうして音色やリズムを変えようと思ったのか」などの思いや意図を自覚しながら試します。そのために、響きをよく聴いて試行錯誤することができる環境を整えたり、友達の演奏を聴き合う時間を確保したりします。グループや学級全体で、様々な響きに触れながら、響きに対する自分の考えを更新し続けていく子供の姿を目指します。

(白築 了太郎)



家庭科 第6学年 「できた!をつなげてクッキング ~いためる調理にチャレンジ~」

火加減や炒め方等に注目しながら、家庭での理想のスクランブルエッグ作りにもけたポイントを見いだしていく授業を提案します。

炒める調理に初挑戦の子供たち。ゆでると炒めるの違いから炒める良さを見つけたり、三色野菜炒めの調理を通して、炒める調理のポイントを考えたりして、できた!を増やしてきました。

家族にごちそうしたい理想のスクランブルエッグを目指し、本時では、これまでの学びを活かして、火加減や炒め方に注目しながら炒める調理のポイントをつかむことを目指します。友達と話し合いながら試行錯誤を繰り返すことで、改善のサイクルを自ら回す子供の姿を目指します。

(畠山 きり)



体育科 第2学年 「切り替えて得点! 2on2シュートボール!」 (E ゲーム ア ボールゲーム)

素早く切り替えをするにはどのように動いたらよいかという視点から、チームで相手のゴールに走ったり、パスしたりする動きを分かり直す授業を提案します。

本単元では、ボール運動において大切にしたいボールを持たないときの動きと、ゴール型の特性である攻守を切り替える動きの素地をつくることをねらいます。

そのため、2対2のパスゲームとし、子供の動きの選択肢を単純かつ、明確にすることで、ボールを持たないときの動きに目を向けやすくします。また、攻守の切り替え時に2対0の状況が生じるようにし、チームとして素早く切り替えをするよさに気付くことができるようにします。教師の問いかけにより、素早く切り替えをするよさを分かり直し、ゲームに熱中する姿を目指します。

(藤原 健太)

